

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 4月 30日

事業所名 Plus+days鳳校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	92%	8%	部屋ごとに用途がわかれている。利用児童が多いときや自由遊びや集団活動で運動する際狭く感じることもあるがパーテーションを開けて広く使えるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	当日の欠席で職員が多すぎることもあるため必要に応じて勤務シフトを調整している。	日によって目が行き届いていないと感じるときがあるため職員間での連携に努める。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75%	25%	外階段に滑り止めや手すりをつけたりトイレのドアノブを変えたりしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	92%	8%		一部PDCAサイクルは取れていない。パート職員にも月に一度の振り返りを実施する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年実施して意向の確認を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%		外部評価は行っていない。社内での独自の評価を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	92%	8%	年に数回、対面、Webでの研修の機会がある。管理者から情報が適宜共有されている。	参加できるものは参加していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	子どものニーズ把握のため「こども相談室」を実施し、半年に一度児童と職員が1対1で思いを伝えられる機会をつくり支援計画にも生かしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	92%	8%	WISKなどの発達検査を参考にしている。	新規の見学時と個別支援計画更新時にことばのアセスメントシートをつける。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	92%	8%	大きなイベントについては複数人で考えている。職員同士で相談、助言がし合えるように出勤職員に活動の共有を行っている。	チームでは行わず個々で考えて共有している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	近日中に行った活動と内容が同じにならないように職員間で記録をとりながら共有している。担当職員を換えて固定化しないようにしている。	さまざまな視点で考えていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	その時にしかできない季節行事等を取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		集団ではこれまで以上に他者との交流を図るプログラムを入れていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼、昼礼で確認や話し合いが行われ、参加できない職員には書面や口頭でも共有できるようにしている。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼を行い、共有している。共有ノート記入し全職員で共有することができている。		

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	共有事項をノートに記載するなどしている。対応方法等について話し合っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	適宜行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	さまざまなイベントや活動内容を計画して取り組んでいる。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校のおたよりを毎月確認したり、保護者の方へもお迎え時間と下校時刻に相違がないか事前に情報共有して確認をお願いしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	50%	医療的ケア児の受け入れは行っていない。 てんかん発作のある児童がいるため、対応方法手順表をつくり連絡体制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83%	17%	保護者を通じての情報収集に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%	相談支援員を通じて共有を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	17%	代表職員が研修を受けて、資料やノートなどで共有し周知する機会があった。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	25%	75%	地域の公園やイベントに参加するなどして交流の機会を持つと努めている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	67%	33%		参加できていないため、今後機会をみて参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時やメッセージ、電話、保護者会などで家庭でのようすやこどもの発達状況等細かく共有している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	保護者会で行っている。	実施日程を増やすなどして職員への取り組みの認知を上げていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	都度、児発管や他職員と相談をして保護者の支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	定期的を開催している。 保護者会で保護者間の連携を支援している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談があった際には他の職員にも共有し対応方法の検討を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNSや月に1回の通信発行で発信している。 事業所内の掲示板にも掲示して子どもも見られるようにしている。	
	35	個人情報に十分注意している	92%	8%	写真掲載時は名前や顔がわからないようにしている。 事前に写真掲載に関する同意書ももらっている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	イラストや写真の使用、タイマーの導入等して工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	75%	地域の方を招待することは難しいが近隣公園へ行くなどして交流を図っている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	各種マニュアルを作成し掲示している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に2度避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年2回実施している。 当日受けられない人も後日動画を見て受けている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	92%	8%	必要性に応じて計画にも記載して対応している。	できていない場合がある。身体拘束の必要性について、現場の声を拾いやすいように職員間のコミュニケーションを密にとる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%	医師の指示書はないがアレルギー食品は使わないようにしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	すぐに報告共有するようにしている。	